

7月17日 ガラテヤの信徒への手紙5章2～11節 今日の説教から

説教題：「正しさとは、愚かさとは」

今日の聖書箇所では「義」「正しさ」と対比されて、いくつかの「正しくないもの」が例に挙げられています。例えば、旧約聖書において正しさは「律法」や「割礼」と切り離すことが出来ません。しかし、盲目的に割礼を受ければイスラエルの民として神様から義であると認められるわけでもありません。いえ、むしろパウロは今日の箇所で「割礼は受けるべきではない」とさえ言っています。割礼とはイスラエルの民である印であり、「律法を守る」ことを体に刻む儀式でした。律法を守ることで神様から正しい人であるというお墨付きをもらおうとしているのです。律法を守る人は正しい人で、律法を破る人は罪人である。そのように差別を行うことで、イスラエルの民は自分たちの正しさを保ってきました。

しかし、イエス様はその信仰の態度に否を突きつけます。十戒の前半部分に込められた「まず第一に神様を愛しなさい」という掟と、十戒の後半部分に込められた「隣人を自分のように愛しなさい」という掟、その両方を信仰に基づいて実践することが、何よりも神様が望んでいる事であり、ただ割礼を受けるだけ、律法を守るだけでは意味がありません。

そのように、真理に従うことを勧めるパウロは、この手紙の送り先であるガラテヤの信徒たちの信仰が誰かによって邪魔されている現状を憂っていました。「わずかなパン種がパンを膨らませる」というたとえによって、小さな邪魔が大きな影響となって彼らに襲い掛かっていることを指摘して、しかし「あなたたちであれば決してイエス様の言葉からそれることはないだろう」と、信頼の言葉を記しています。「あなたがたを惑わす者は、だれであろうと、裁きを受けます」と、彼らが正しい信仰を続けることが出来るように励ましの言葉を送っています。今自分たちがこれほどまでに迫害を受けているのは何故か、それは割礼のように今まで当たり前であったものを勧めているのではなく、イエス様の教えてくれた、十字架による罪の贖いと復活、イエス様を信じることで神の義が与えられる、という驚くべき出来事を人々に語っているからこそ自分たちは迫害されているのだ、と語りかけています。

このように、私たちの正しさは、律法のような「行い」によって成し遂げられるものではありません。私たちが何か行動を起こしたから、あるいは何もしなかったから「正しい」となるわけではないのです。あくまでも私たちが正しいとされるのは神様からの一方的な恵みによるものであり、私たちの努力によって成し遂げられているわけではありません。私たちは神様を信じることによって、イエス様のことを救い主として信じることによって、その信仰の結果として様々な正しい愛の行いを実践することが出来るのです。私たちの行動の土台は信仰であり、神さまであることを忘れてはいけません。

私たちの正しさは、いつも神様の元にあります。だからこそ、いつもすべてに疑問を抱きながら、悩みながら、それでも愚直に神様の御心を訪ねていきましょう。それが、私たちが行うべき「正しい信仰の態度」なのだと思います。

神様の元に私たちの正しさが備えられている、その喜びを胸に、今週一週間の、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：ガラテヤの信徒への手紙5章2～11節

- 2:ここで、わたしパウロはあなたがたに断言します。もし割礼を受けるなら、あなたがたにとってキリストは何の役にも立たない方になります。割礼を受ける人すべてに、もう一度はっきり言います。そういう人は律法全体を行う義務があるのです。律法によって義とされようとするなら、あなたがたはだれであろうと、キリストとは縁もゆかりもない者とされ、いただいた恵みも失います。わたしたちは、義とされた者の希望が実現することを、“霊”により、信仰に基づいて切に待ち望んでいるのです。キリスト・イエスに結ばれていれば、割礼の有無は問題ではなく、愛の実践を伴う信仰こそ大切です。
- 7:あなたがたは、よく走っていました。それなのに、いったいだれが邪魔をして真理に従わないようにさせたのですか。このような誘いは、あなたがたを召し出しておられる方からのものではありません。わずかなパン種が練り粉全体を膨らませるのです。あなたがたが決して別な考えを持つことはない、わたしは主をよりどころとしてあなたがたを信頼しています。あなたがたを惑わす者は、だれであろうと、裁きを受けます。兄弟たち、このわたしが、今なお割礼を宣べ伝えているとするならば、今なお迫害を受けているのは、なぜですか。そのようなことを宣べ伝えれば、十字架のつまずきもなくなっていたことでしょう。

ローマの信徒への手紙3章21～28節

- 今や、律法とは関係なく、しかも律法と預言者によって立証されて、神の義が示されました。すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。このように神は忍耐してこられたが、今この時に義を示されたのは、御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義となさるためです。では、人の誇りはどこにあるのか。それは取り除かれました。どんな法則によってか。行いの法則によるのか。そうではない。信仰の法則によります。なぜなら、わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです。